

全東京写真連盟

撮影会写真コンクール

入賞作品集



審査対象 臨海副都心モデル撮影会

撮影日 2023年11月12日

審査日 2024年01月07日

審査員: HARUKI先生



金賞
「元気娘」
荒井 秀雄 様
モデル 蒼井 愛華

審査員：HARUKI先生 講評

大人数の撮影会ではよくあることですがこちらの場所とシチュエーションの作品も例にもれず他にも数点ありました。どの作品もモデルの表情もたいへん良くて悩みましたが、最終的にこちらの作品を選んだ理由は動きが出ている斜めのポーズや、上に手を掛けている赤いオブジェがしっかり入っているなどのトータルバランスが功を奏しました。晩秋らしさを感じられる公園の季節感を背景に、画面上部の薄い赤と下部の淡いグリーン
の反対色での配置が若さと爽やかさを際立てています☆



銀賞
「ファンタジー」
小幡 大輔 様
モデル 桜井 らら

審査員：HARUKI先生 講評

審査会場では中望遠レンズだと思込んでいましたが、いまこうして原稿を書くにあたって撮影データを確認すると大口径標準レンズでした。この写真のように50mm前後の標準レンズでもF2よりも明るい開放絞り値では結構ボケるものです。逆に中望遠レンズの開放撮影だったなら背景がもっとボケてしまい向こう岸に存在する船舶やクレーンなどが見えなかったかも知れません。この作品のもう一つのポイントは淡い色味の衣装モデルを配置したところにあります。色味がない曇り日の中にカラフルな衣装のモデルさんだと背景と隔絶したちんちんりでバランスが取れない絵になっていましたがパステルカラーでフラットな風景にも良く馴染んでおります。スカートが風をはらんで画面に動きを添えたのも良かったです◎



銅賞
「眼差し」
中山 静男 様
モデル 大橋 めりさ

審査員：HARUKI先生 講評

モデルさんが横たわったポーズでの俯瞰や横から撮影する写真というのは大抵カメラマン（或いは、その方向）に対してモデルさん側からの何かしら誘うような媚びた表情が多いのですが、こちらの作品は「眼差し」というタイトルにありますようにやや凝視をするような、問いかけるような能動的な表情に趣を覚えました。こちらの作品も曇天下なのでレフ板の効果が期待出来ないフラット光線の中での小さなストロボによる補助光の使い方がGOODです。全体的に+0.5くらい明るく仕上げたらもっと良かったですね！！



入選
「ミニで散歩」
石川 玲 様
モデル HIMECA



入選
「元気な子」
鵜飼 典彦 様
モデル 蒼井 愛華



入選
「まなざし」
内藤 勝之 様
モデル 桜井 らら



入選
「雨降りを楽しむ」
佐久間 裕史 様
モデル 桜井 らら



入選
「まなざし」
片桐 研一 様
モデル 大橋 めりさ



佳作
「笑顔」
深野 武雄 様
モデル 桜井 らら



佳作
「薄紫」
谷川 朗 様
モデル 桜井 らら



佳作
「white view」
小倉 良二 様
モデル 桜井 らら



佳作
「ここにいるよ」
芝本 勲 様
モデル 桜井 らら



佳作
「シリアス」
中山 昌幸 様
モデル 大橋 めりさ



佳作
「葉に埋もれる」
田沼 靖信 様
モデル HIMEGA



佳作
「オブジェにて」
金澤 義夫 様
モデル 桜井 らら



佳作
「映画のシーンのように」
岸野 孝博 様
モデル 桜井 らら



佳作
「雨だけど楽しい～＼(^ ^)／」
星野 祐一 様
モデル 蒼井 愛華



佳作
「視線」
吉田 博一 様
モデル 大橋 めりさ



次点
「埠頭公園のひととき」
菅原 道久 様
モデル 蒼井 愛華



次点
「スマイル」
湯原 章綱 様
モデル 加藤 季恵



次点
「立ち姿」
河村 徳助 様
モデル 蒼井 愛華



次点
「待っていて」
横川 哲夫 様
モデル 蒼井 愛華



次点
「Dreams can be fragile」
門間 正之 様
モデル 蒼井 愛華



次点
「ベンチにて」
山田 栄一 様
モデル 蒼井 愛華



次点
「she is cute」
寺島 弘行 様
モデル HIMECA



次点
「ステキな物語」
斎藤 貴生 様
モデル 桜井 らら



次点
「光に包まれて」
小野寺 基之 様
モデル 加藤 季恵



次点
「振り返る」
山本 暁治 様
モデル 蒼井 愛華

【 F 値の選択 】

撮影時のカメラ設定は人それぞれですし、使用するカメラやレンズなど機材選択の他にISO感度、絞り、シャッター速度、ホワイトバランス、撮影内容や状況、好みや意図によっても変わるかと思えます。すべての要素が必要不可欠な要素ですし、それらが掛け合わさって生まれてくる仕上がりにも影響します。ベテランの方が多いので今さらなのですが「絞り値」の選択について振り返ってみたいと思えます。ポートレート撮影会ということもあって70-200mmズームレンズや単焦点の85mm や135mm 大口径レンズで絞り開放値で撮影をされる方が多いです。それは王道の撮影法の一つとして良いのですが人と違う写真を目指すのであれば少し絞った撮影などされては如何でしょうか？大口径レンズでの開放絞りで人物だけを際立たせ他をボカしたい気持ちはわかりますが、そればかりですと何処で撮っても関係なくなりその場所ならではの特徴や良さを生かせないのです。開放はもちろんOKですが同時に少し絞ったカットも撮ってみることも楽しさや表現の領域が広がるかと思えますよ☆

HARUKI